

HINARI が開発途上国に向けて提供する 電子ジャーナルの計量的分析

城山泰彦 (KIYAMA Yasuhiko)
順天堂大学図書館

電子ジャーナル ; 開発途上国 ; HINARI ; Journal Citation Reports ; 計量書誌学

I. 背景と目的

開発途上国の非営利研究機関に向けて電子ジャーナルを提供する HINARI (Health InterNet Access to Research Initiative)は、世界保健機関(WHO)の主導により、2002年に大手学術出版6社の約1,500誌でサービスを開始した。12年を経た2014年5月で、160以上の出版社や学協会の13,322誌に増加している。提供誌数が増加する一方、中には地域的な雑誌、非英語言語の雑誌、Open Access Journalも含まれており、雑誌の質は玉石混合の印象を受ける。本調査では、独自の収載基準により厳選された Journal Citation Reports (JCR)の分野別リスト収載誌を指標として、HINARIではそれぞれの医学分野の中で、国際的に有用とされる学術情報をどれだけ網羅しているか分析した。

II. 調査項目と調査方法

調査対象は、HINARI提供誌リストから2013年8月15日に採取した12,725誌のうち、重複・異名・誌名変遷等を除いた12,544誌とした。次にJCR, Science Edition 2012年版に掲載された176のSubject Category(分野)に、独自に設定した11の上位分野を付与し、基礎医学・臨床医学と総合科学に該当する計56分野を抽出した。そして56分野ごとの収載状況を、収載誌数とImpact Factor値(IF値)の2つを指標とした散布図(下図)を作成して、HINARIでの分野ごとの学術雑誌の充足度を分析した。

III. 結論と考察

収載誌数は、臨床医学 81.5%、基礎医学 75.0%、総合科学 42.9%、IF値の合計は、臨床医学 87.4%、基礎医学 82.8%、総合科学 88.7%と、いずれも高い充足度と考えられる。この結果から、HINARIは国際的に有用な学術雑誌を多く収載していることを確認できた。HINARIは開発途上国に向けたイニシアチブであり、現地の保健や医療に直結する感染症学や熱帯医学をはじめとする臨床医学の充実度が高いことは予想できたが、寄生虫学やウイルス学をはじめとする基礎医学も多く収載されていた。

